

令和5年度事業実績報告

法人本部

令和5年度は、「経営の安定を図り、事業展開を推し進めていくこと」「法人として“地域のセーフティネット”の役割と使命を再度確認し、事業を発展拡大していくこと」を基本方針に掲げ、法人の運営と経営を。各施設で行っている事業を数字で可視化し、まずは経営会議にて、数字を基にそれぞれの施設の課題、分析を行うことで、本部職員とそれぞれの施設が共通認識を持った中、運営、経営を図るようにしました。また施設長会にて、各施設に事業状況を発表し。各施設長が他施設の運営、経営状況を知る機会を作り、自施設と他施設を比較させることで、施設運営、施設経営をする意識の向上を図りました。

複雑化、多様化する福祉ニーズに対応していくため、事業所が各々持っている機能を十分に発揮し、連携をもって行動できるように部会を通し、情報共有をしました。地域セーフティネットを広げ、支援の質を保証していけるように、切れ目のない対応をしました。

特別養護老人ホーム 富士宮荘

令和5年度は、令和6年1月末から2月末までの間、施設内において新型コロナのクラスターが発生しその期間における新規入所者の受入れが出来ず、稼働率の低下となってしまいました。その後も感染症対策を継続して事業を行いました。地域貢献事業において、上井出地区、白糸地区の地域行事の対応を行いました。

年間稼働率 99.1% 年間の新規入所者は34名、退所者は33名でありました。

ショートステイ萩の里

新規利用者の獲得を念頭において事業を進めてまいりましたが、稼働率の向上につながらず低迷してしまいました。

苦情が2件ありましたので、利用者及びご家族、担当ケアマネへの対応及び謝罪を行っております。

年間稼働率 52.3%

デイサービスセンターみどりの里

前年同様に新型コロナの影響を受け、利用控え等により利用率の安定しない1年となってしまいました。また、高齢化に伴いデイサービスからショートステイへの移行等もみられるような状況でありました。

年間稼働率 57.4%

居宅介護支援事業所のぞみ

ケアマネとしてのスキルアップに努め関係機関との調整を密に行い、より

よい居宅サービス計画を提供できました。

当期資金収支差額合計は 3, 150, 250円

特別養護老人ホーム ネオライフとみざわ

稼働率は、98.9% 前年より0.7ポイント増となりました。

入居者は重度介護の方が多く、平均介護度は4.41。

今年度、1件の虐待案件が発生し、家族や南部町への報告・調査を行い、調査結果を家族と南部町に報告。今後、このようなことが無いようにしていきます。

感染症は、新型コロナウイルスが流行しネオライフとみざわ内でも大規模クラスターが発生しました。入所者24人、職員14人、計38人の罹患者が出ましたが、幸い入院に至る重篤患者は発生しませんでした。引き続き、感染予防に努めて参ります。

ショートステイネオライフとみざわ

稼働率は、75.4% 前年より9.7ポイント減となりました。

デイサービスセンター菜の花の里

稼働率は、47.3% 前年より3.4ポイント減となりました。

ヘルパーステーションさつき

ヘルパーの稼働率は、月平均307.8件 前年より月13.2件減となりました。

居宅介護支援事業所ネオライフとみざわ

居宅の稼働率は、月平均70.7件 前年より月5.2件減となりました。

当期資金収支差額合計 2, 878, 828円

特別養護老人ホーム シャローム富士川

入居ですが、令和5年度は入退居が33件、入院者も36人と多い年ではありましたが、できる限り早い対応を意識した結果、97.8%と前年比0.3ポイント増となりました。しかしながら年間目標98%に僅かではありますが届かなかったため、しっかり反省し6年度は入居者様が安定して過ごせるよう医療、介護と連携を図ってまいります。

新型コロナウイルスの対応では、入居者様、職員に複数名発症しましたが、感染拡大予防の徹底や大規模なシミュレーションの効果から当該フロア内で収束しています。

防災については、富士市より福祉避難所の指定を受けて数年経過しますが、能登半島沖地震が発生したことで、富士市と協議を行い、対応方法や実践に即した計画を立案しました。

短期入所生活介護（ショートステイ）は、新規利用者の獲得と入所空床利用の活用により91.9%となり、前年比4.6ポイント増となりました。これは各居宅介護支援事業所へ空き情報を提供し、こまめに連携を図ることにより空室を最小限に留めた成果だと考えます。

通所介護 にこにこホーム（デイサービス）です。1月下旬から2月初旬にかけて利用者様、職員の新型コロナウイルス発症により5日間の営業休止をすることになりましたが、年間稼働率80.7%となり、前年比2.5ポイント増となりました。

今年度も在宅サービスにおいては新規の獲得と稼働率向上に力を注ぎ、利用者様やご家族様に信頼されるサービスの提供に努めます。

当期資金収支差額合計 319,536円

地域密着型特別養護老人ホーム なかざと

令和5年度、テーマとして「スピード」を意識して仕事に取り組むようにしました。その結果、特別養護老人ホームでは、年間の空き室状況については29日また入院日数については、40日と稼働率が令和4年度より1.3ポイント増の99.3%となりました。

認知症対応型通所介護については、「スピード」に加え、令和4年度からベースにしている「紹介を断らない」というスタイルで引き続き運営を行い、令和5年11月からは稼働率も85%を超える形でキープすることができました。年間平均稼働率は73.2%で、事業所を開所して以来、一番の年間平均稼働率を出すことができました。

なかざと生きがい倶楽部につきましては、自粛していた外出行事を多く再開し、「音楽療法体操」に力を入れました。利用延べ人数では1457名と令和4年度に比べ、65人増加しました。

当期資金収支差額合計 1,682,768円

地域密着型特別養護老人ホーム 松野の里

入居の状況は長期入院者が少なかった事や退居者が少なかったことにより99.6%と前年比0.7ポイント増となりました。

新型コロナウイルス感染対応もありましたが、面会方法の変更や行事等の再開など段階的に緩和し、施設内行事でも「おしゃれクラブ」など活動を再開し、入居者様に楽しんでいただけるよう、またご家族にも安心していただける運営に努めました。

また、防災訓練にも力を注ぎ、火災、地震だけでなく、水害、防犯、感染症などの訓練も実施しました。

今後も入居者の快適な生活を保ちつつ、多様なリスクの予防や対策に尽力してまいります。

当期資金収支差額合計 4,151,144円

地域密着型特別養護老人ホーム草塩おんせん

稼働率4月から徐々に下がり8月には最低の88.7%と最悪の状態が5ヶ

月間続きました。

稼働率が下がった原因を検証するために、毎月のリーダー会議・各部所の会議・個々での面談等を行い原因と問題点を拾い上げました。施設長 5 カ月間不在のため相談員が兼務したため仕事量が増え営業活動ができなくなった。介護職員と看護職員の意思疎通がうまくできなかった。利用者の介護度が低く歩行できるためリスクが多い。職員不足等、次々と問題点が出てきました。

近隣の居宅・老人保健施設・病院に営業活動、利用者の異変について早期受診等 1 つずつ徐々に原因を解消していくことで稼働率も徐々に上げることができ 9 月以降 98.4% となり、5 年度の平均稼働率 96.3% になりました。

次にデイサービスセンターはやかかわです。指定管理最終年度でした。稼働率ですが定員 18 名、延べ利用者数 1,842 人、1 日平均 7 名です。集中豪雨・積雪により 6 日の臨時休業でした。

当期資金収支差額合計 4,134,077 円

特別養護老人ホーム ソレイユ甲府

○拠点全体として、ユニットケアに相応しいサービスに努めるとともに、時代に即した職員の知識・意識の醸成に重きを置き、介護技術、リスクマネジメント、虐待防止等の研修、訓練等を実施し事業推進を図りました。また、感染症にも施設全体で取り組み、意識を緩めることの無いよう対策に努めました。こうした中、収益では、ご利用者に影響のないことを前提に出来る限りの支出削減に努め、特養、ショートステイ、居宅事業ともに収益、稼働率において目標を一定程度達成し、拠点全体の収益面で昨年を上回る事ができました。また、サービスでは稼働率が上がり苦慮しましたが、組織全体で連携・工夫し営業に努め、この 6 月には状況が上向き、複数の新規利用者様のご利用が始まるなどしっかりと稼働率の改善が見えて来ました。今後も、継続して稼働率や収益対策を図っていきます。

当期資金収支差額合計 7,822,181 円

障害者支援施設 三和荘

前年比稼働率は営業範囲を広げた結果、入所利用者 6%、短期入所 19%、通所利用者△1% でした。障害部 4 拠点と連携し、誰ひとり取り残さない支援の実現・継続できるように運営します。

新型コロナによるクラスターで、感染症対応の経費が発生しました。生活においては利用者の声を聴き、コロナ禍でも施設生活を楽しんでいただける日中活動や行事を実施しました。

不適切な支援と疑われる案件があり、施設から通報いたしました。その後は市からの助言指導をいただきながら改善に取り組み、虐待防止に取り組みました。

利用者の高齢化・重度化がすすんでいます。施設生活の充実につとめました。

建物も45年を超え、修繕費がかかりますが設備管理を今後も行い、災害時にも対応できる施設運営を目指します。能登半島地震の被災施設に対し、障害部で連携し、物的及び人的支援を実施しました。

当期資金収支差額合計 17,251,232円

障害者支援施設 くぬぎの里

入所は、コロナ禍の感染症対策を重点とし4月よりスタート外出・面会等の規制から始まりましたが、5月よりコロナが5類対応となり、外出行事・面会の緩和となりました。しかし、7月から8月にかけてコロナのクラスターが発生、利用者23名、職員12名、計35名が罹患し感染対策の1年となりました。

本年1月1日に能登半島地震が発生し、くぬぎの里・三和荘が加盟している障害施設が甚大な被害を受け、1月5日に食料、水、衛生品を車2台分届け、又、人的支援として石川県穴水町の施設へくぬぎの里1名、三和荘1名、1週間支援してまいりました。

地域交流の一環として大淵地区の福祉施設合同の祭りを開催

大淵地区の美化活動、大淵クリーン作戦に参加致しました。

入所稼働率 97.6%

短期入所・デイサービスはともに年間稼働率35%と低く、要因として入所本体の7～8月のクラスターにて数日間の営業中止、又、ショートの2人部屋を1部屋に、65歳になりました契約書の介護保険施設への移行等であります。

今後、新規ご利用者様の確保に努めます。

当期資金収支差額合計 8,420,737円

障害者支援施設 きぼうの里

きぼうの里は、施設入所（50床）・短期入所（5床）・通所（定員22名）・地域活動支援センター（定員20名）の4つの事業を運営しております。

施設の年間稼働率については、98.3%で前年比と変わりありません。

入所2件、退所1件あり、入院は9件あり、施設に戻られたケースは8件で、長期入院で退所になったケースは、1件ありました。

平均年齢は、男性51.2歳、女性53.7歳、全体で52.2歳でした。

令和5年度より地域との新たな関わりとしては、大淵地区環境監視パトロール「クリーン作戦」、大淵ふくし秋祭りに参加させていただき、地域の方々とのふれあいを大切にさせていただきました。

短期入所につきましては、88.2%で前年比+3ポイントとなりました。新規利用者や緊急受け入れの結果増加しました。

通所については、75%で前年比-7.6ポイントとなりました。施設入所と利用者のご逝去、新型コロナウイルスの影響により減少しております。

地域活動支援センターについては、62.8%で前年比+1.1ポイントとなりました。長期利用中止の方、他施設入所や県外への転居があり苦戦しておりますが、引き続き営業を努力していきます。

当期資金収支差額合計 9,825,124円

障がい者福祉センター小泉

令和5年度は6年目の運営だった。小泉では次の4つの事業を運営した。

生活介護は、1日定員20名で障がい者の日中活動、日中の居場所として安全に快適に利用していただけるように、個別支援・障害特性に沿った支援を大切に運営した。

稼働率94.1%、前年度比0.3ポイント増。

放課後等デイサービスは、1日定員10名で小1~高3の障害児の学校と家庭のつなぎの場として、療育の視点を持った支援を大切に運営した。

また、1月から要望が多かった帰りの送迎サービスを実施、それによる新規利用の増が見込めた。

稼働率52.5%、前年度比5.4ポイント増。

相談支援事業は、障害者総合支援法の指定事業所としての特定相談支援と富士宮市委託の相談支援の2つを運営した。相談内容は複雑多岐で専門性も必要なため関係機関との連携やスキルアップを図った。委託相談3,719件、特定相談556件。

地域生活支援拠点事業は、障がい児者の重度化・高齢化や親亡き後を見据え、関係機関が協力して本人やその家族を地域全体で支える仕組みとして、令和2年4月より富士宮市からコーディネーターとして委託を受け4年目。3月末時点で緊急時対応名簿登録者40名。

事業所全体の取り組みとしては、SNSの発信や折込チラシの配布、事業所見学会などを行い、事業所紹介や新規利用の案内をすすめました。あわせて定期的に関係機関を訪問し、運営状況や空き情報などの情報を伝え、利用者獲得に向けた顔の見える関係づくりに取り組みました。

当期資金収支差額合計 302,455円

養護老人ホーム 長生園

長生園は昭和37年に富士宮市が開設した養護老人ホームです。

平成15年度からは、富士厚生会がその管理運営を市から委託されています。

その間、安心・安全な施設運営を心掛け、入所されている皆さんの支援をしてきました。

この実績が認められ、平成18年度には、長生園の管理運営について、富士宮市

の指定管理者に指定され、議会で承認されました。

本年4月からは、新たな5年間の指定を受けています。

長生園の入所者は、市が判定委員会を開催して決定します。指定管理者の厚生会は、市から毎月委託料をいただいて、施設を運営しています。

現在、定員50人に対して、入所者は50人、入所率は100%です。

養護老人ホームは、県内に24施設ありますが、入所率100%の施設は、長生園だけになりました。

静岡県の養護老人ホームの平均入所率は75.9%です。

市からいただいている委託料は、入所率にほぼ比例します。安定した経営のためにも、今後、いっそう市との連携を密にして、入所率100%を維持してまいります。尚、長生園は病気などで入院する人があった場合、その空いた部屋を別の人に貸すことはできませんので、その稼働率は低下することになります。

なお、長生園は、富士宮市が行う公共施設の長寿命化工事の対象になっています。令和5年度には、約1億円かけて、屋根や外壁、浄化設備、給湯設備を修繕していただきました。令和6年度も引き続き、老朽箇所を修繕していただきます。

当期資金収支差額合計 90,532円

富士市富士南部地域包括支援センター

令和5年度は職員配置人数の変更ありませんでした。センター内会議を月2回開催し、個別ケースの把握や対応、業務についての計画と方向性や進捗等を協議し、情報の共有に努めました。

総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント事業、介護予防ケアマネジメントについては、行政、圏域内の事業所、地域住民と連携を図り実施しました。一般高齢者を対象に包括主催の介護予防教室や脳の健康教室を開催しました。在宅医療・介護予防連携推進事業は市の事業に参加協力しました。認知症総合支援事業は、医療機関と連携を図りました。生活支援体制整備事業は、地域関係機関との連携に努めました。

今後も富士市や関係機関との連携を図り、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるように、地域包括ケアの推進に努めます。

当期資金収支差額合計 2,730,856円

富士市富士川地域包括支援センター

・富士市より委託を受けて、13年目になります。担当地域は富士川・松野地区、一番高齢化率が高く面積も広い地域になります。

・職員配置は専門職4名、事務員1名にて運営、今年度は地域ケア会議を各地

区で開催しました。

- ・包括的継続的ケアマネジメントに関しましては、困難ケースなどには、同行訪問や個別ケア会議を開催、情報共有や状態改善に努めてまいりました。また、介護支援専門員対象に質の向上を図る研修を年3回開催しました。

- ・認知症サポーター養成講座も「するが看護専門学校」にて開催、生徒さんに改めて勉強になりましたと喜んでいただけました。

- ・住民主体の通いの場の立ち上げには、地域の皆様にリーダーになってもらい「ご近所さんの運動教室」、「サロン」等に参加して頂くことでフレイル予防に力を入れております。

- ・緊急性のある相談には、訪問や他機関と連携するなど迅速に対応しております。

当期資金収支差額合計 43,664円

富士宮市富士根地域包括支援センター事業報告

運営開始から6年が経過。新規相談や困難ケースの対応など、その都度包括内で情報を共有し協力して支援を行う事が出来ています。

昨年の新規相談件数は396件。多問題や困難なケースが多いため、ケアマネからの相談が増加。随時個別相談や質問等対応し、必要性に応じて同行訪問やケア会議の開催等も行っています。

虐待の相談も増加傾向にある為昨年は介護支援専門員に向けた虐待の研修を行いました。毎月、圏域のケアマネと社協や地域の人たちを集め打ち合わせ会を開催し情報の共有や意見交換を行っています。

認知症施策の活動では打ちっ放しゴルフの会にて昨年は認知症の方とショートコースをまわりました。今年は高校や中学のゴルフ部との交流も計画しています。

今後も富士宮市や関係機関と連携を図り、地域包括ケアの推進に努めて行きます。

当期資金収支差額合計 557,886円